

平成 27 年度 第 1 回磐田市廃棄物減量化等推進審議会 会議録

【日 時】 平成 27 年 7 月 16 日（木）午後 1 時 30 分～

【会 場】 磐田市クリーンセンター 会議室

【出席者】 会 長 玉田 文江  
副会長 府川 光利  
委 員 鶴藤美保子 杉浦 聖  
稲垣 幸子 宮地 浩  
虫生 時彦 高木 浩三  
長谷川幸雄 菊池 潤一  
今泉 佳代 藤原ハルエ  
大橋 康二 順不同（13名出席）

（欠 席 白澤 宏一 美和 和典 ）

【事務局】 環境水道部長、ごみ対策課長、ごみ対策課長補佐  
審議会担当職員 2 名

【会議概要】

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長選出
4. 報告
5. 議題
6. その他
7. 閉会

【意見・質疑の主な内容】

	○報告①「平成 26 年度ごみ排出量について」 報告②「資源ごみ持ち去り状況について」 【事務局より一括して説明】
議長	ただいまの説明につきまして、意見や質問がありましたらお願いします。
委員	平成 26 年度のごみ排出量について、金物ごみの収集量が前年度よ

り増えているのはなぜですか？

事務局 ここ数年、金物の持ち去りが非常に激しく行われていましたが、平成26年度から資源ごみの持ち去りを条例で禁止したことや、パトロール等で監視することによって、今まで持ち去られていた金物ごみが適正に処理されるようになったためです。ですので、金物の排出量は「増えた」のではなく、「通常排出される量に戻った」と判断しています。

委員 そうすると、年間200トン以上が持ち去られていたということですか？

事務局 私どもも驚いていることではありますが、そのほとんどが持ち去られていたと判断していいと思っております。

委員 平成26年度になってごみ総排出量がプラスに転じた理由が可燃ごみと金物ごみの増加ということでしたけれど、特に可燃ごみが増えていますね。分別変更によってプラスチック類も可燃ごみになったということですが、この増加は想定範囲内だったのでしょうか？ また、今後もこの程度のごみ量が出てくるのでしょうか？

事務局 汚れたプラスチック製容器包装も可燃ごみで出せるようになりましたので、この分可燃ごみが増えることは当然想定していました。また、破碎ごみも焼却するようになりましたので、不燃ごみが減ることも想定しておりました。

しかし、可燃ごみの増加量から不燃ごみの削減量を引いても、900トン以上可燃ごみが増えています。やはり、分別変更によってごみが出しやすくなったことで、家の中に眠っていたカバンや大型プラスチックごみが多く出されたのではないかと思われませんが、排出量が増加した状態がこのまま継続しないように今後は検討していかなければいけないと考えております。

委員 持ち去りの報告の中で、指導件数4件とありますが、そのうち罰則規定を適応した事例はあるのでしょうか？

事務局 罰則まで適応した事例はありません。まず、持ち去りを発見したら注意を行います。その上で再度持ち去りをしたら禁止命令を出すことを伝えますが、この4件については、注意指導をしたことで行為が止

まったということです。

議 長 他にご質問などがありましたらお願いします。  
《意見・質問なし。質疑を打ち切る》

○議題「ごみの排出量削減に向けた取組みについて」  
【事務局より、資料説明】

議 長 今日は、市民の意識を高めるためにどうしたらいいか、また市がどうやって啓発していけば効果的なのかなどについて、ざっくばらんにご意見をいただきたいです。

委 員 マイバックはかなり普及したようですが、コンビニや小売店ではまだレジ袋を多く使っているように見受けられますが。

委 員 商業者の立場からいうと、大型店舗以外の小売店などでは宣伝のためにオリジナルの袋を使っている所もありますし、レジ袋が有料化されると売上に大きく反映してしまうことも考えられるのでなかなか踏み切れないのだと思います。また、過剰包装に関しても、ごみを減らすためになくしたい気持ちは十分ありますが、きれいなラッピングなどを希望するお客様も多い中で、なくしていくことは難しいと思います。

委 員 大型店といえば、最近では、スーパーなどでトレイや缶を集めていますよね。行政がリサイクル品を全て回収するのではなく、そういった民間の回収を積極的に利用するようにPRなどをしていけば、市の施設で処理するごみは減ると思うのですがどうでしょうか。

事務局 民間のリサイクル品回収について行政が介入していくのは難しいので、行政が行うものと民間が行うものがうまく共存していければと思っています。今問題になっているのは、リサイクルすることもできない可燃ごみが増えていることですので、皆さんからはこのごみをどうすれば減らせかについて、アイデアをいただくと非常にありがたいです。

委員 買い物などの際に、購入者がごみを減らす意識が必要ではないでしょうか？

私が実践していることですが、本を買うときはブックカバーや袋を断っています。ごみになるものをもらわないという心掛けでもごみを減らせるのではないかと思います。

委員 私の家では生ごみ処理機を使っているのですが、生ごみをごみとして出していません。家庭で24時間生ごみを処理できるので、そのような家庭が増えれば、生ごみについてはかなりの量が減らせるのではないのでしょうか？

委員 他の市でも生ごみの水分を切る機械を配っていましたよね。これから果物など水分が多いごみが増える時期なので、そういった取組みもとても効果的だと思います。

事務局 可燃ごみの組成を調べると、50%が水分という結果が出ています。また、可燃ごみは全体のごみの80%ですので、ごみ全体のうちの40%が水分だと言えます。水分が減れば、ごみをかなり減らすことができるため、他市ではそのような取り組みを行っているようです。

委員 そうすると、生ごみを乾燥させて積極的に土に返そうという取組みもいいかもしれませんね。

委員 水分を減らせばごみを減らせるなんて画期的ですね。

委員 では、次に進めていくことは「水分をどうやって減らすか」についての取組みを考えていくことで決まりではないのでしょうか？

(異議なし)

議長 意見がまとまったようですので、ここで審議を締めさせていただきます。

委員の皆さまには、今日の会議に限らず、普段の生活の中で市民一人ひとりが実践できるごみの排出量削減に向けた取組みへのアイデアがないかご注意いただき、次回以降も積極的にご意見をいただきたいと思います。

○その他

平成 27 年度磐田市廃棄物減量化等推進審議会のスケジュール (予定)

【事務局より説明】

議 長      以上で、本日の議案審議は、すべて終了いたしました。本日は、熱心なご審議をいただき、誠にありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

事務局     本日はお疲れ様でした。以上を持ちまして、本日の会議を終了します。ありがとうございました。

閉会